

3 文化財の調査とその概要

主として未指定等の文化財を対象として、次の調査を行いました。この中には、継続中の調査もあります。

- 文化財の地域別聞き取り調査
- 神社建造物^{しつがい}悉皆調査
- 寺院所有の美術工芸品調査
- 旧家所有文書調査
- 記紀伝承地・風土記登場地の調査
- 築地松実態調査
- 戦前の民家に関する調査
- 無形民俗文化財の調査

ここでは各調査の概要(要点)をまとめています。なお、各調査で得たデータについては、資料編(付録CD)に収録しています(寺院所有の美術工芸品調査・築地松実態調査を除く)。

(1) 文化財の地域別聞き取り調査の方法と実施状況

文化財の聞き取り調査を、地域(地区)別に実施しました。調査の方法は、地域(地区)ごとにコミュニティセンター長や文化財の調査協力員、その他協力員(地域の文化財等に詳しい住民)に集まっていただき、次の項目について聞き取りを行いました。

- テーマ1：これからも地域で守り継いでいきたい文化財(未指定等の文化財)は何ですか(各自5つ程度)。
- テーマ2：指定文化財ほか地域にあるすべての文化財のうち、地域の特色を色濃く表しているもの・特徴的なテーマは何ですか。
- 地域の文化財の保存・活用についての意見交換

表 1-7 文化財の地域別聞き取り調査の実施状況(一覧)

回	実施日	会場	対象地区
1	平成27年11月5日(木)	出雲弥生の森博物館	今市、大津、塩治、高松
2	平成27年12月1日(火)	川跡コミュニティセンター	四絡、高浜、川跡、鳶巣
3	平成27年12月11日(金)	古志コミュニティセンター	神西、神門、古志
4	平成27年12月15日(火)	稗原コミュニティセンター	上津、稗原、朝山、乙立
5	平成27年12月18日(金)	長浜コミュニティセンター	長浜
6	平成28年1月22日(金)	平田コミュニティセンター	平田、灘分、久多美
7	平成28年1月25日(月)	檜山コミュニティセンター	檜山、東、佐香、伊野
8	平成28年1月29日(金)	西田コミュニティセンター	国富、西田、鰐淵、北浜
9	平成28年2月17日(水)	湖陵コミュニティセンター	湖陵、多伎、須佐、窪田
10	平成28年2月19日(金)	直江コミュニティセンター	直江、久木、出東
11	平成28年2月22日(月)	出西コミュニティセンター	出西、阿宮、伊波野
12	平成28年2月24日(水)	荘原コミュニティセンター	荘原
13	平成28年2月26日(金)	大社コミュニティセンター	大社、荒木、遙堪、日御碕、鵜鷺

※長浜地区は、「神西・神門・古志」と、荘原地区は「直江・久木・出東」と合わせて整理。

調査結果の要点を、地域(地区)ごとに、特徴的なテーマと文化財マップとして整理しました。また、調査をとおして地域の特徴や他地域との関連性を新たに見出し、主なものについてまとめました。

ア 文化財の地域別聞き取り調査の結果(要点)

① 今市・大津・塩冶・高松

《特徴的なテーマ》

今市：『出雲市一の中心地で人口密度が一番高い』

大念寺古墳、塚山古墳は中心市街地の古墳。古くから拓けたところで、商業活動が盛ん。高瀬川の舟便、大社まで米を運び米倉庫があった。

大和紡績、郡是製糸が発展を牽引。明治43年出雲市駅ができ、大和紡績に引き込み線を入れる。

御幸町：上水道なしで、戦前までは井戸。

食文化：麴屋(現在は1軒)、味噌屋、醤油屋、酒屋醸造(昔は10軒、今は2軒)、そば屋(羽根屋)。

小路・路地・寺院も多い。

東郷平八郎が泊まった時の揮毫が大念寺に残る。

高瀬川の柳は風情がある。柳が植えられたのは昭和と思われ、それ以前はない。

八雲神社の桜並木は地元で愛されている。

大津：『史跡と水の郷』 樋守、岩樋、高瀬川、斐伊川放水路分流堰あり。

水運がポイント。瓦生産が盛んだったのは土が良く水運があったから。高瀬川を利用した水車による脱穀(来原～大曲に水車が10軒あった)、染業(高瀬川一水運業。紺屋)などができた。

紺屋は宝暦5年(1754)と文政2年の指出帳にそれぞれ3軒がみえる。

本板倉家は文化4年(1807)に総染紺屋、文政12年(1829)から板締仕出染め、明治3～4年に座を今市の浅尾氏に譲る→浅尾織維へ

長田紺屋は明治中頃に大津町大曲へ。その他、来間紺屋(大曲北)、橋本新宮家(下来原下)があった。

染物屋は大正時代には十数軒あった。

酒屋は昔はあったが今はない。

光明寺一寺子屋

板倉家には下宿していた若槻禮次郎の真筆手紙など関連のものが色々残っている。平成28年は生誕150周年。

芸者置屋が4つあった(今でも置屋跡が1つ残る)

山田本陣、平野勲記念館、包蒙館跡、西谷墳墓群も大津を特徴付ける文化財。

塩冶：塩冶判官高貞は地域で最も親しまれ、忠臣蔵のモデルとなっていることから全国にも誇れる。

築山古墳群は塩冶の古代を代表する遺跡。

斐伊川放水路は全国一の規模の放水路。出雲における治水の歴史を語るうえでも非常に重要。

布野家は塩冶を代表する旧家。

高松：曲松(現在は2代目)が地名の起源と思われる。

地区の中央に高瀬川、南境に神戸川、北方に新内藤川が流れる。

白枝八通荒神社の八通荒神は字や分水の起点。

江角邸を移築した出雲文化伝承館がある。

井上恵助は浜山の松植樹に成功した偉人。碑が立てられ顕彰されている。

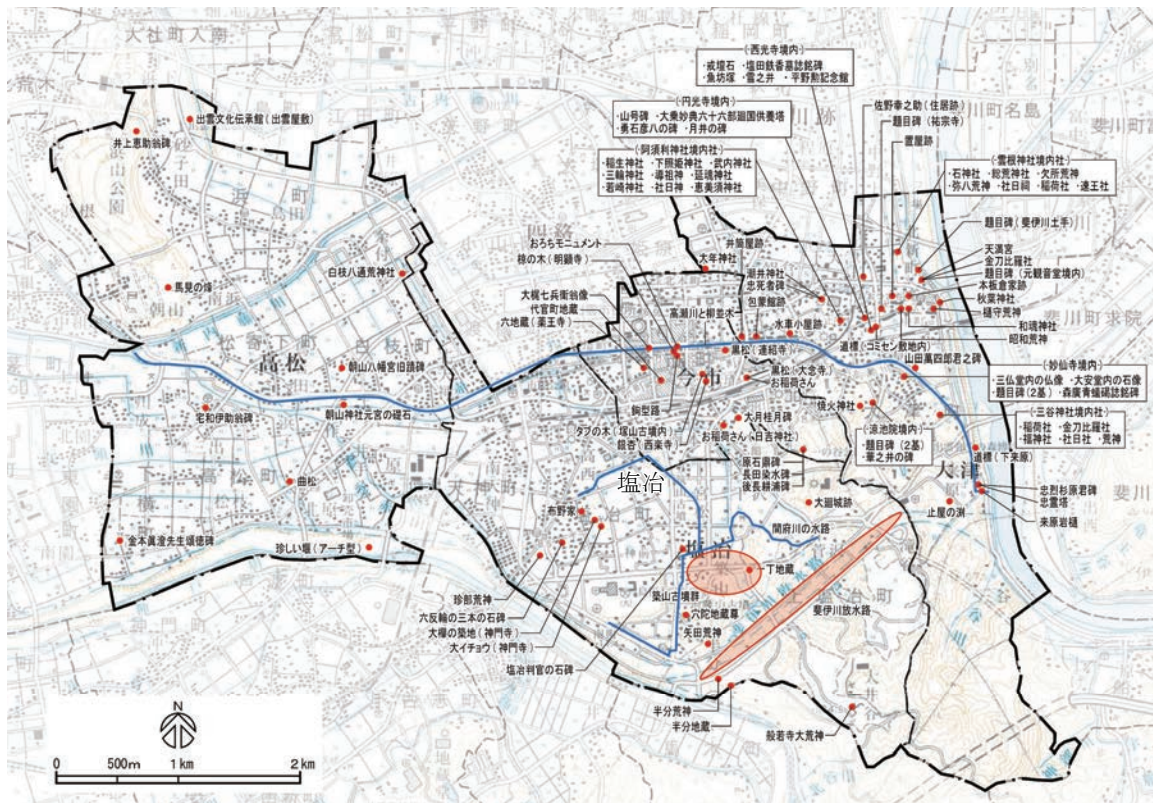


図 1-12 文化財(歴史文化：主として未指定等)とその分布～今市・大津・塩冶・高松～

② 四絡・高浜・川跡・鳶巣

《特徴的なテーマ》

川跡：『街道と川のまち川跡』 川跡には平田杵築街道が通っているのが特徴。川跡はもともと川の跡なので遺跡が少ない。

西山砂保の墓、萩村古墳、若狭土手は川跡を特徴付ける文化財。

鳶巣：大寺古墳～大寺薬師(古代～奈良)・・・今の地域との繋がりが切れておりもっと調査して欲しい。宗教的にはどういうエリアだったのか調査が必要。

土手の歴史(近世)

鳶ヶ巣城(戦国時代)・・・町屋(中組、来須、奥谷)、通り名「市場通」、屋号「花屋敷」「山崎」など、市内全域を年代毎に輪切りにしてみる。

高浜：『山手と原手の歴史の違い』 山手には、風土記や記紀の登場地が多く、古い歴史がある。原手は、新たに土地ができたところで、山崎夫八郎を中心とする湿田開発の歴史。

四絡：『矢野遺跡(矢野貝塚)など出雲平野の中心』 縄文～江戸まで続く集落で、かつての神門水海には船もつく。北陸、岡山、九州の遺物も出土。

出雲平野発展の原点で、2000年前からの土壌があり出雲にとって大事な地区。

せっかくある民間や地元の古文書、古記録。矢野村の記録は原本が分からない。原本を市で寄託・保存し記録に残してはどうか。

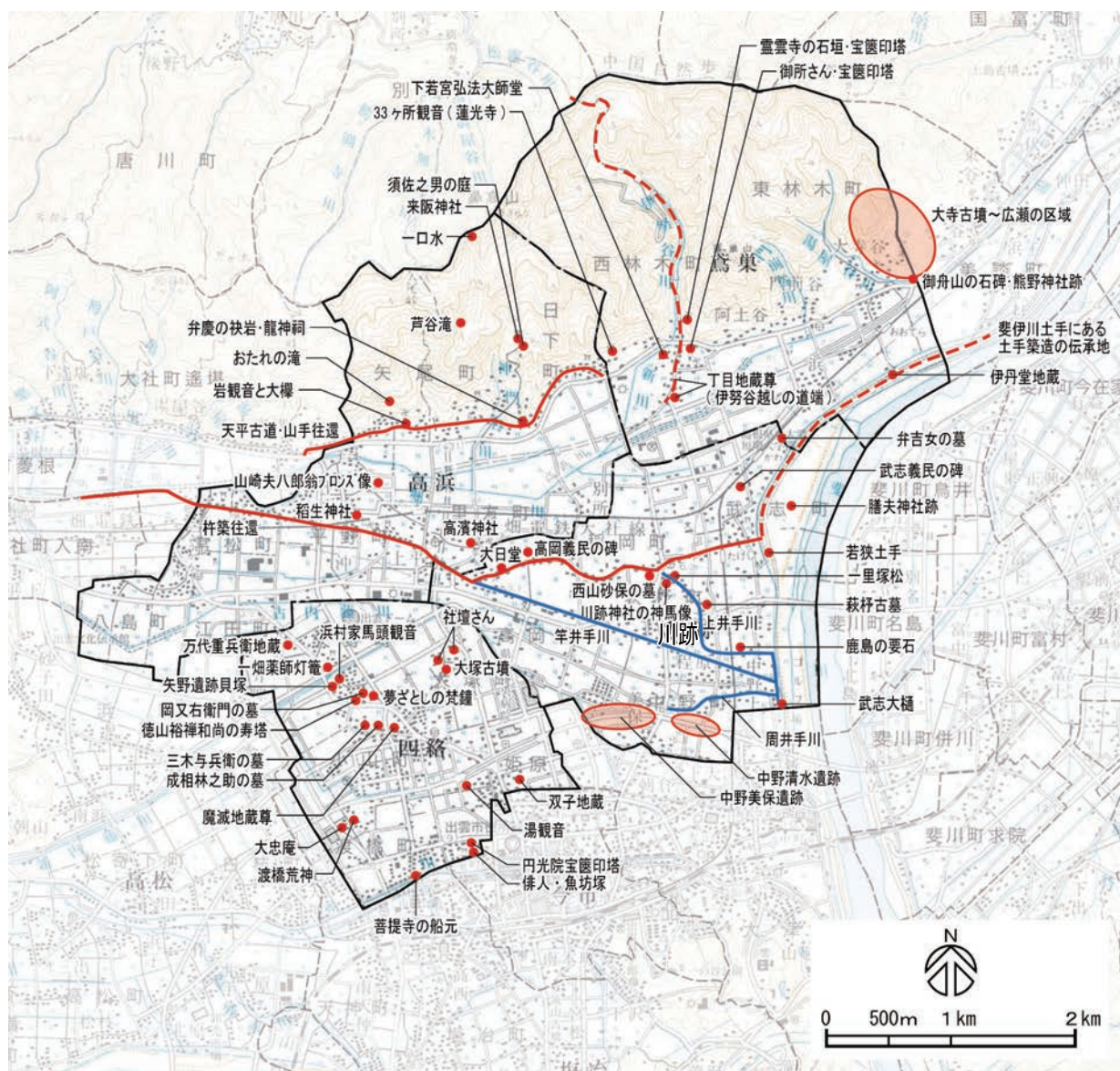


図 1-13 文化財(歴史文化：主として未指定等)とその分布～四絡・高浜・川跡・鳶巣～

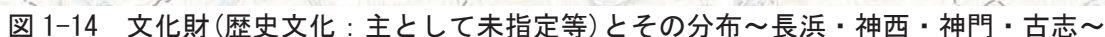
長浜：『壮大な国引きロマンと国土創成』、『神門水海の西園開拓と植林』
斐伊川放水路により神戸川と斐伊川が再びつながった(かつては神門水海を介してつながっていた)。

神西：神西湖、神門水海、古代から集落、神話の影響で信仰心が篤い、貴船神社(水神、龍神が多い)とその周りの古墳、尼子氏・毛利氏との関連性、川の開削の歴史、十間川・差海川(近世に排水が出来るようになり農地拡大)、藺の長浜の神話(国引きの綱)、藺荘の中の神西荘

神門：保知石川沿いの神話(イザナギとイザナミ)、農業の始まり、比布智神社(椎の木の社)、宇賀池等古代からの開拓の証、昔からの大庄屋に貴重な古文書が多く残っている。農業生産力の高いところ。

『平野にある古墳と山にある古墳』
比布留神社の御頭祭(おとうさい) 頭人は当初 5 人→昭和 23 年(1948)から 3 人 半年間家で仮の宮を祀り、秋の御頭祭へ。頭人は紋付き羽織、袴

古志：旧備後街道や神門郡家跡は古志を特徴付ける歴史文化遺産。
大梶七兵衛は古志でも親しまれている偉人。
「古志」という地名自体に価値があり、新潟県長岡市の山古志村との交流を行ったこともある。



④ 上津・稗原・朝山・乙立

＜特徴的なテーマ＞

- 上津：お寺が多く、現在6ヶ寺、宮5つ。昔はもっと多く20ヶ寺程度(村誌に記載あり)
ヤマタノオロチの神楽も昔はあった。水害＝斐伊川とともに歩んだ歴史がある。船津や古土手などの地名も残る。
上津は市の水源地で、斐伊川大工事は土木の発祥。斐伊川のわき出る水は冷たい。斐伊川氾濫を「蛇が漏る」という。
- 稗原：稗原の地形は稗原川を中心に盆地状で周辺には風土記に登場する山、山城、寺社が多く残る。要害山は稗原小の行事で登ったり、小学校の校歌にあるなど地域との関連が深い。
法王寺・市森神社・稗原ダム周辺は平成26年度「地域が誇る観光スポット」に認定された。地域の方々のまとまりが良く、歴史・文化に対する意識が高い。稗原盆踊り、総合文化祭は地域をあげて取り組んでいる。
旧家高橋家は旧稗原小学校の建築木材の寄付や軽便鉄道(旧一畑電鉄立久恵線：昭和40年廃止)の整備を手掛けるなど稗原を語るとき必ず出てくる家。今でも書院は残っており、後継者が地元にはいないため記録に残す必要がある。
古瀬一夫氏は水道や道路の設置、災害復旧等に先導者として社会基盤の整備に尽力された。
- 朝山：朝山は4つの村からなる地区で、朝山・馬木と所原・見々久で特徴が異なる。朝山・馬木は風土記などにも登場する場所がたくさんあり、古墳や史跡も多く、神戸川とともに人々が古くから生活してきた地域である。
所原・見々久は比較的歴史が浅いのではないかな。古い史跡や風土記などの登場地もない。
見々久・朝山・馬木それぞれに神楽が残っており、子ども神楽が盛んで、小学校でも行っている。連合音楽祭で、朝山小は毎年神楽を発表している。
- 乙立：『神戸川と立久恵峡』 先人の頃より発信されてきた特色(赤木昶天、若槻禮次郎、平田駒太郎、大町桂月、桃白鹿など)。地域で立久恵の岩石に名称を付けている。立久恵音頭の継承や立久恵にしかない植物など。

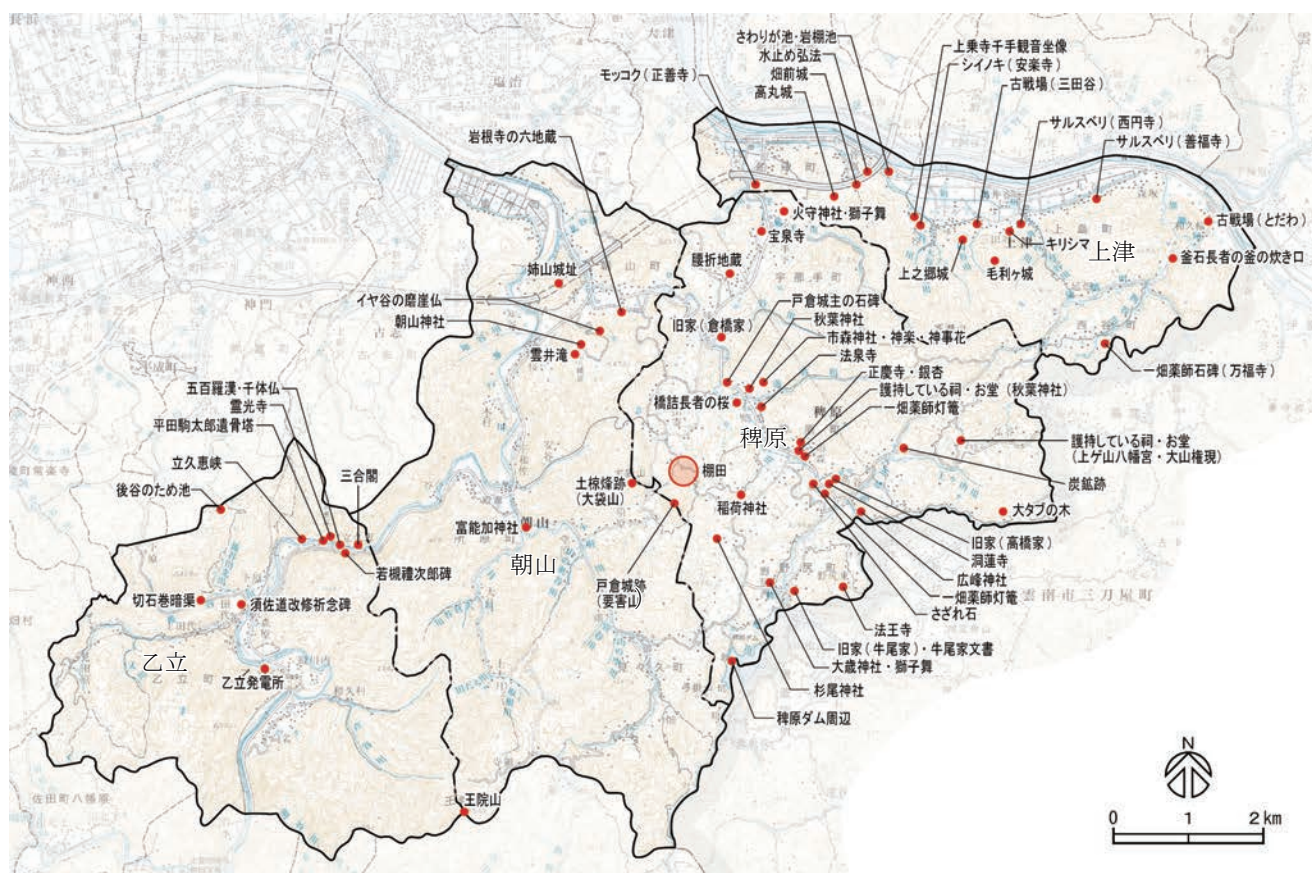


図 1-15 文化財(歴史文化：主として未指定等)とその分布～上津・稗原・朝山・乙立～

⑤ 平田・灘分・久多美

＜特徴的なテーマ＞

平田：「愛宕山」子どもたちにも伝えたい。

「平田一式飾」平田天満宮。

灘分：「新しい町(斐伊川東流以降の歴史)」文化財の起源から今に至るまでつまびらかに分かる。身分制度もなかった。食糧として柿の木が多い。

『斐伊川改修への反対』 闘争の歴史、開拓への情熱

『平田は港、灘分は新田開発で発展』灘分は日当たりがよい。農業に金肥を使用する。宍道湖寄りにはシジミ漁で栄える。灘分は山がない。水害との戦い。樋門が多い。

その他：灘分小のヤナギの木も大切にしたい。斐伊川の堤防は住民にとって圧迫感がある。

久多美：『古い大きな池と川』 地域の上手には宍道湖の水が来ないが稲作に欠かせないことから、明地池、作暮池、池田池、松倉池、四方が池、山ノ助池、迷い谷(4つの池)と平田船川に流れる東郷川、野石谷川、久多見川、天神川は重要。

『伝統芸能(神楽と獅子舞)』神楽1団体(野石谷伝統芸能保存会)、獅子舞3団体(東郷獅子舞伝承会、玖潭獅子舞保存会、臼井剣舞保存会)が残る。獅子舞は玖潭で350年ほど前から続き→西郷→東郷、臼井へと伝わる。

『平田の柿』一番の産地。多種な果実は特産品で、小学校にはりんご園(100本)あり。

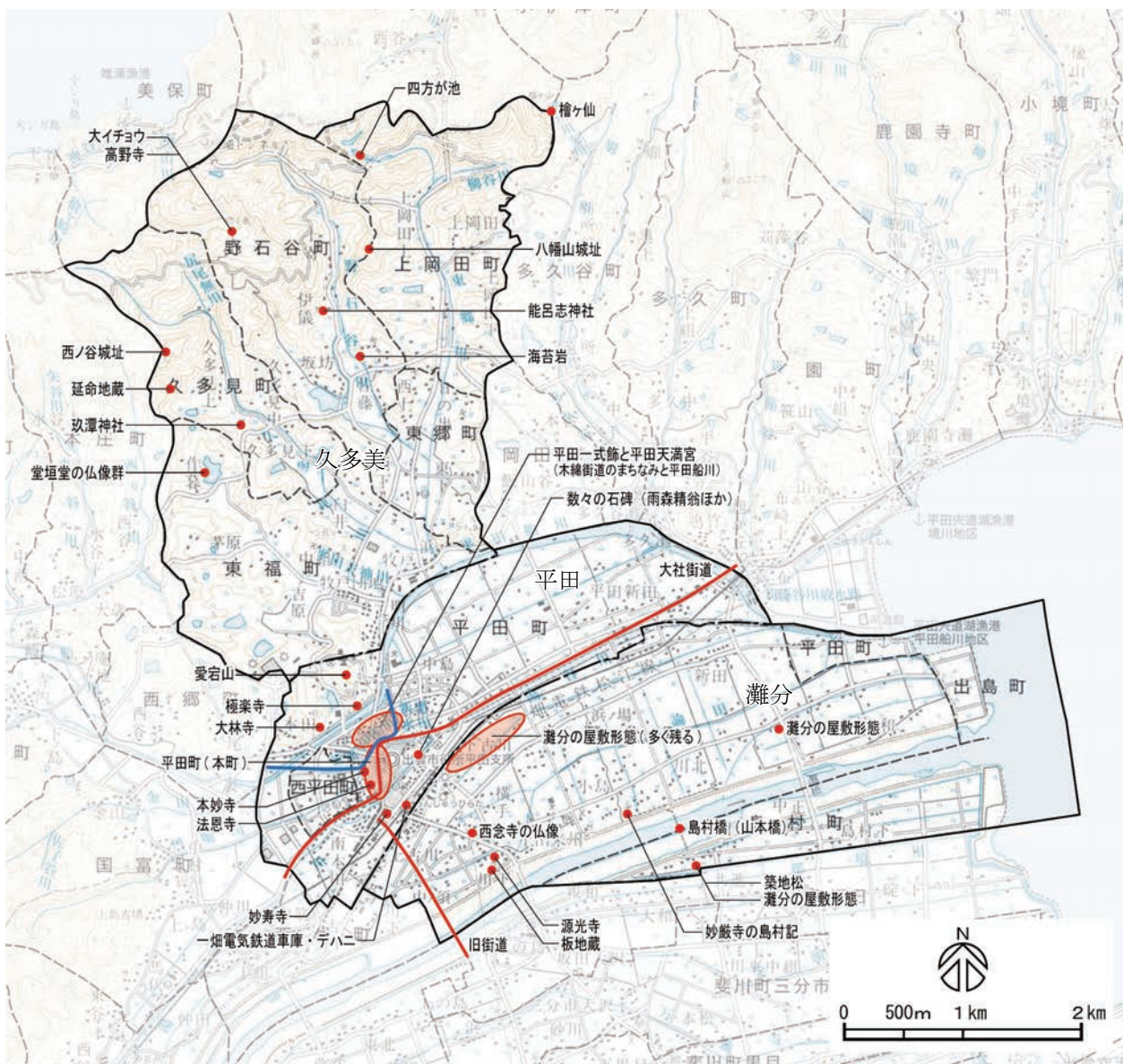


図 1-16 文化財(歴史文化：主として未指定等)とその分布～平田・灘分・久多美～

⑥ 檜山・東・佐香・伊野

＜特徴的なテーマ＞

檜山：楯縫郡家の所在地を調査したい(して欲しい)

東：『一畑薬師を中心とした地区の発展の歴史』一畑薬師は地元の人々の一番の誇り。東地区は一畑薬師を中心に発展した。一畑電鉄が敷設され、一畑パークも出来た。一丁地蔵、箱舟橋、小境灘は一畑薬師へのルートの入口。昔は一畑薬師の近くに一畑口駅があった。東地区は谷筋毎に集落のまとまりがある。

佐香：北向きに家が建っている。漁業に関する歴史があり発展。とんどが盛んで安全祈願をしていた。赤浦や立石さんで観光に繋がれば。小さな祠などが多い。

小伊津の町並みは地形に即した集落の作り方。3つの港町と中山間地(庄部)で文化が少し違う。地形を生かした景色が素晴らしく、海岸線の撮影スポット。

伊野：『伊野は杜氏の町』昔は杜氏をはじめ、酒に関わる人が200人位いて、各地の有名な酒造りに関わっていたが、今は3人のみ。酒にまつわる場所で、寄の荒神もある。

稲作を中心とした集落の冬の出稼ぎとして酒造りに出かけていた。酒の他にも冬季は、あちこちに出稼ぎに行っていた。

伊野の特徴は、『宍道湖から日本海をつなぐ形で地区が広がっている』こと。そのため、海・山・川・湖それぞれの恵みがある。また、ため池が非常に多い。

神社が非常に多く、神社庁に届出があるものは6社、このほかに8社ある。町内毎に神社があるような割合であり、それぞれに特徴のある祭りや伝承が残っているが、今後の維持が困難。伝えること、守ることが今後の課題。

小規模な古墳が多くあり、古くから人の生活が営まれてきた歴史ある地区。

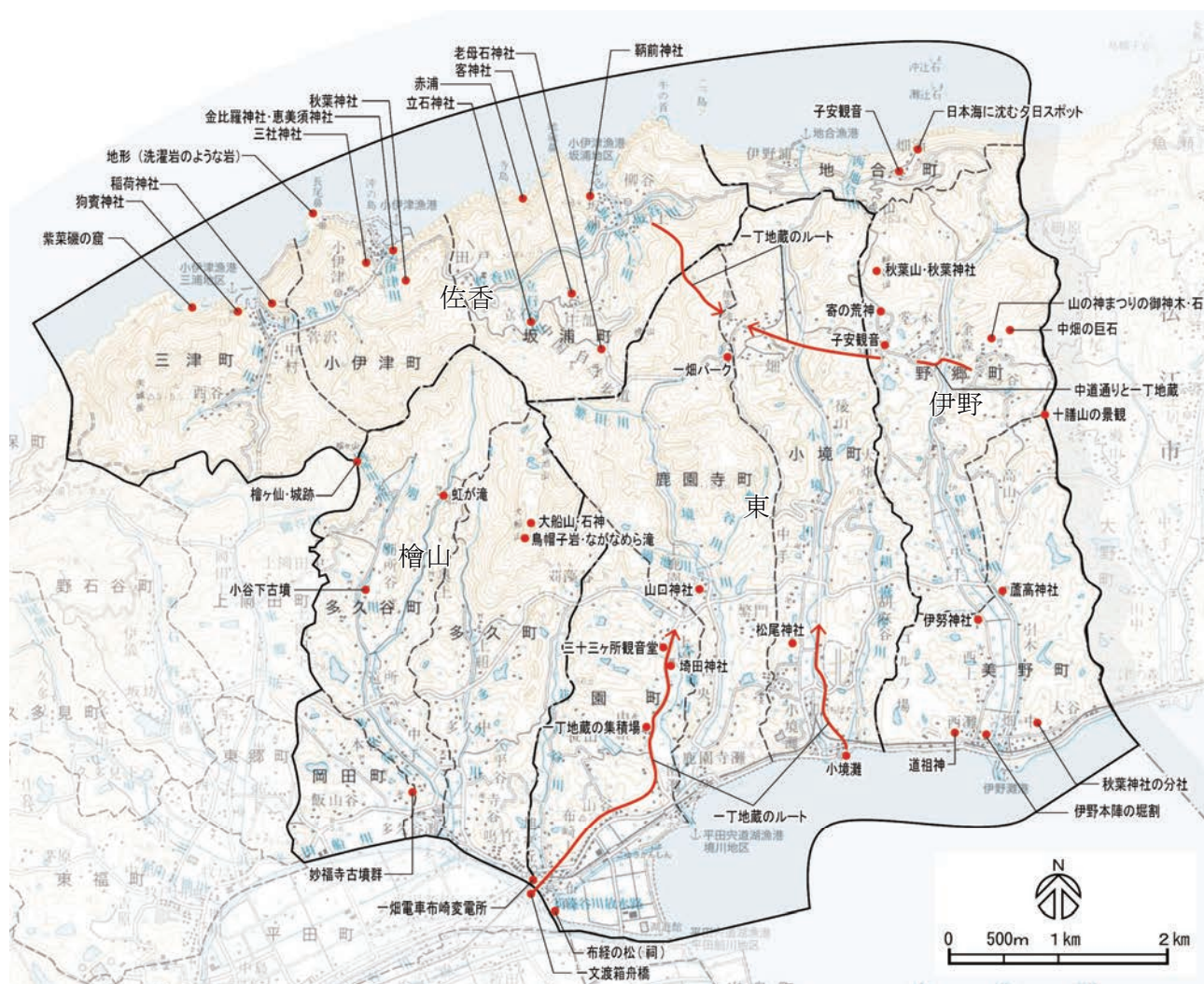


図 1-17 文化財(歴史文化：主として未指定等)とその分布～檜山・東・佐香・伊野～

⑦ 国富・西田・鰐淵・北浜

＜特徴的なテーマ＞

国富：『旅伏山麓の町』 要石は「国留」から国富の語源であり大切。康国寺の庭園も重要。
古い遺跡が多い：源代遺跡(弥生時代)、国富中村古墳(国指定)、上島古墳(国指定)
上島古墳のそばに石切場があり、サザエの化石が見つかることから昔は海と思われる。

西田：神社が6社あり内5社に獅子舞が残っている。
各家々に荒神が祀ってあり、昔は宮司が家々をまわってお祀りをしていた。
辻堂や小堂もたくさんある。
以上のように昔の形で文化財を残していることが西田の特徴。

鰐淵：『歴史ともみじと港のあるまちわにぶち』 鰐淵地区は、鰐淵寺をはじめ、韓竈神社、猪目洞窟、河下台場跡、河下盆踊り、唐川神楽、獅子舞(河下・唐川・猪目)等の多くの有形・無形文化財を有している。また、長い歴史のなかに培われた多くの文化伝統行事を伝承している。これを後世に伝えとともに地区の活性化の礎にしたい。

北浜：『十六島海苔と十六善神、経島、海城(大床城跡)、十六島の湊』 海との深い関係と防御のための要衝地。大陸からやってきた十六善神は十六島経島に到着。そこには石碑も建っているが、そのお蔭で海苔が取れるようになったといわれる。十六善神は、その後塩冶般若寺に入りお祀りされるが、今でも十六島から般若寺にお祭りの際に出かけ法要を営んでいる。日本海の要衝として、十六島湾に進入する船を監視した山城である大床城跡。別命海城。さらに、この海の歴史は近世にも発展し、北前船が活躍した時代に、十六島湊から北国や九州、大阪へ出かけた船は数多く、出雲国の交易の要として存在した。

『小津の集落』小さい集落であるが古墳、神社が多数集中。許豆神社が3つ集中。古代から発展。

『風力発電(風車)』

『義勇碑とロシア兵の墓』ロシア兵の墓。只浦の義勇碑に見る人々の犠牲的精神の崇高さ。

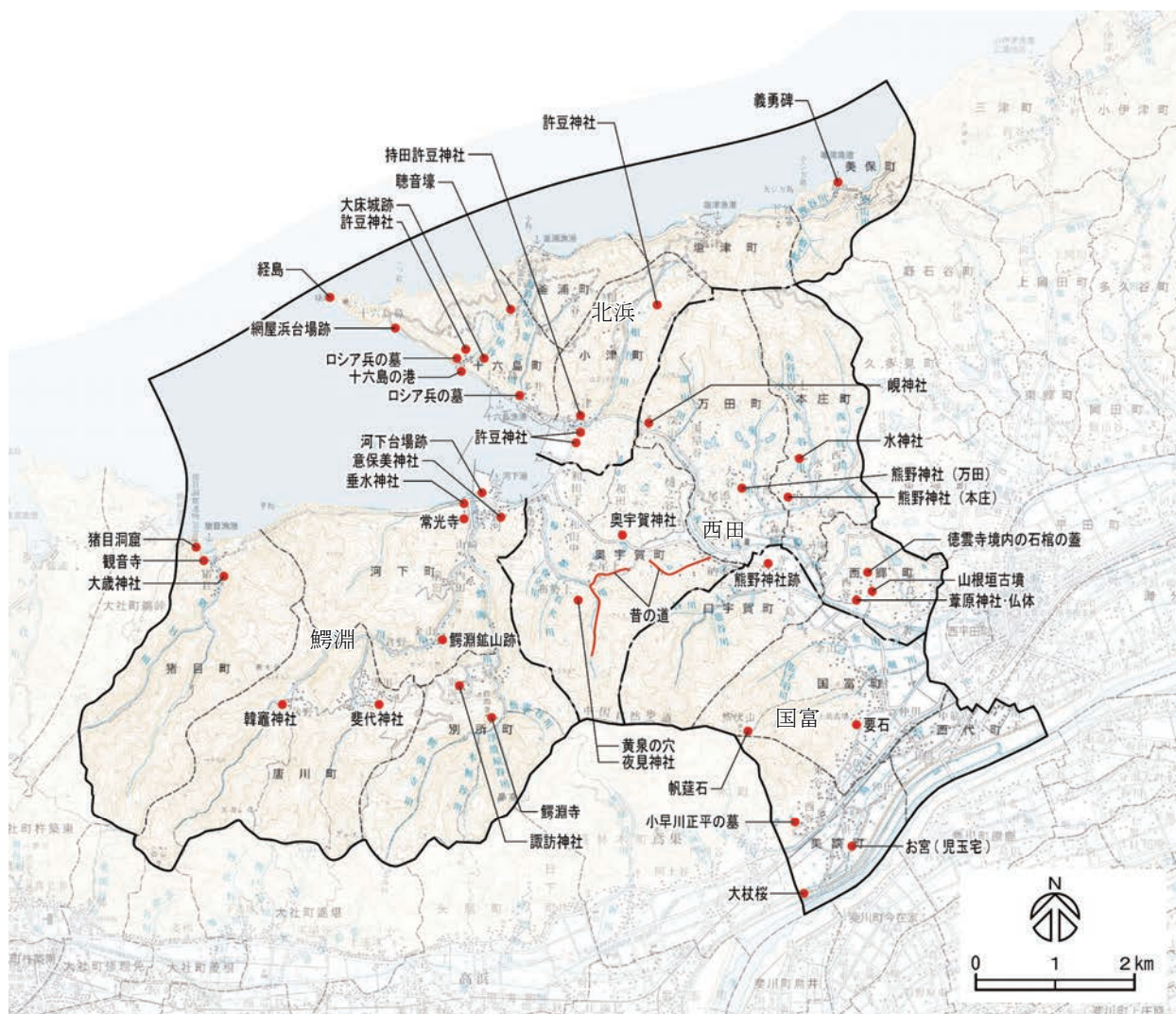


図1-18 文化財(歴史文化：主として未指定等)とその分布～国富・西田・鰐淵・北浜～

⑧ 湖陵・多伎・須佐・窪田

＜特徴的なテーマ＞

湖陵：『佐志武神社の神事華と神事舞』10月の祭で奉納し、多くの人が観に来る。伝統があり、大池や姉谷の神事華に比べて本数が多い。

『差海地区の盆踊り』も歴史があり人が集まる。

常楽寺・三部八幡宮・板津焼山遺跡があり、古くから人が住んでいる町。

昭和39年(1964)の豪雨では湖陵で11名亡くなる。

差海川が出来るまでは新田開発がされず、農地がなかったので日の当たらない土地だった。

二部、三部という地名は、二分割、三分割という意味でこれが地名の起り。

出雲神話と地形の形成に絡めてストーリーが作れる。

神西湖の水代権は神西が2/3、湖陵が1/3

多伎：『たたらを中心としたまち』奥田儀宮本、口田儀と久村の港

『国境のまち』風土記の多伎の郷。田儀、小田、多岐、久村。この時からずっと変わらず、まとまりがある、またまとまりやすい町。

古代・中世・近世と田儀川沿いに遺跡が残っている。国境故の色々な物がある。出雲と石見の違い。

須佐：風土記に「大須佐田・小須佐田」が出てくる。大須佐田は現在の東須佐(宮田・朝原・原田)、小須佐田は西須佐(反辺・大呂・吉野)を指すと言われる。

「佐田」という字名が残っていることから、佐田や須佐などの地名の始まりを調べてみると地域の歴史がより深く理解されると思う。

窪田：『田儀櫻井家と朝日たたら跡を中心とした文化』出雲国風土記にもほとんど出てこない地域で、波須波の集落程度の僅かな人口だったと思われ、佐田町時代に文化財調査もあったが、歴史面では弱い地域。たたら跡と佐津目の鉱山などが代表的。

『7つの氏神様と生活文化』7神社を氏子が守り、秋祭りや神楽も行っている。

出雲国風土記に吉栗山の記載があり、ここで産出する桧や杉が出雲大社の宮材に用いられたという。

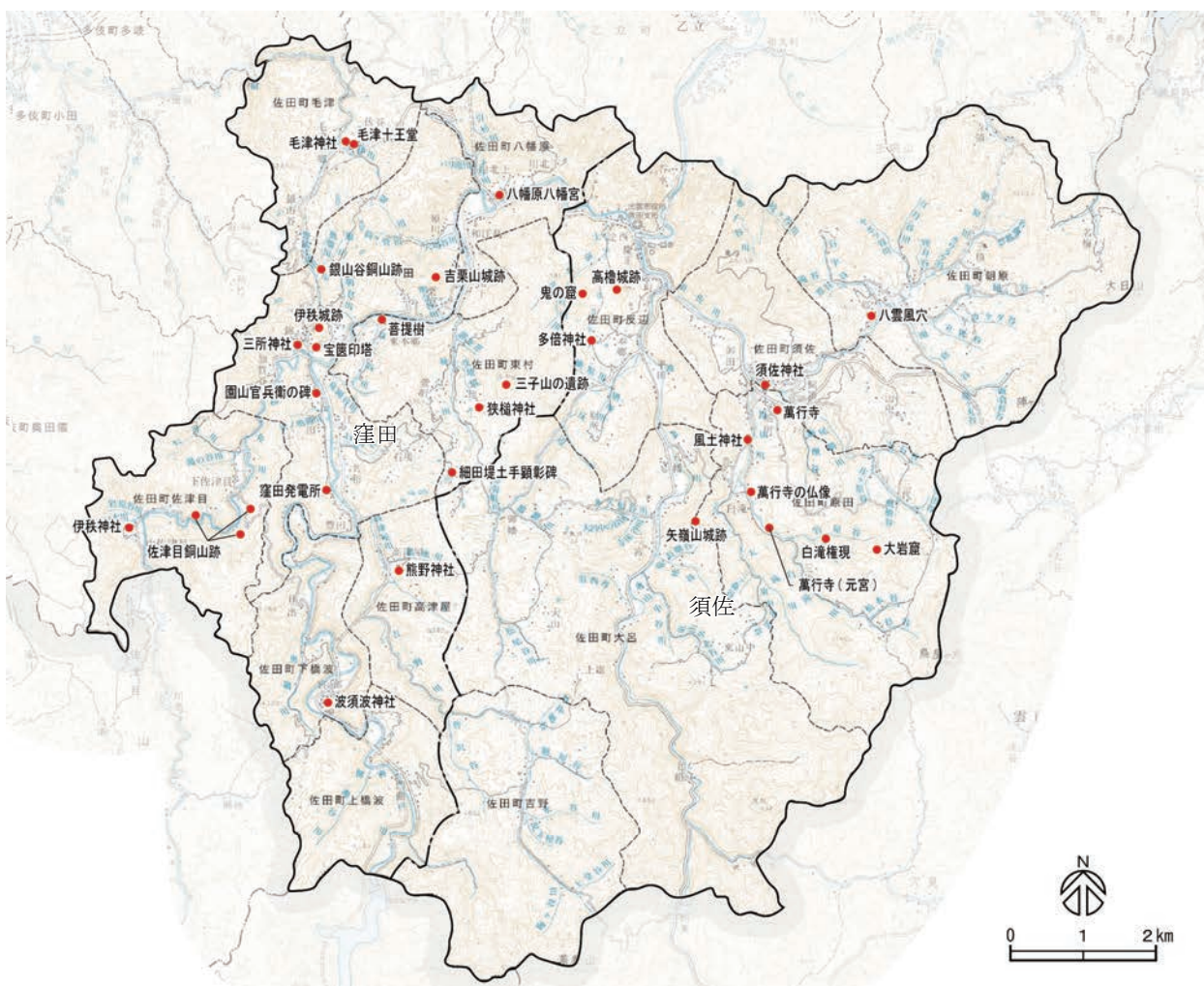


図 1-19 文化財(歴史文化：主として未指定等)とその分布～須佐・窪田～

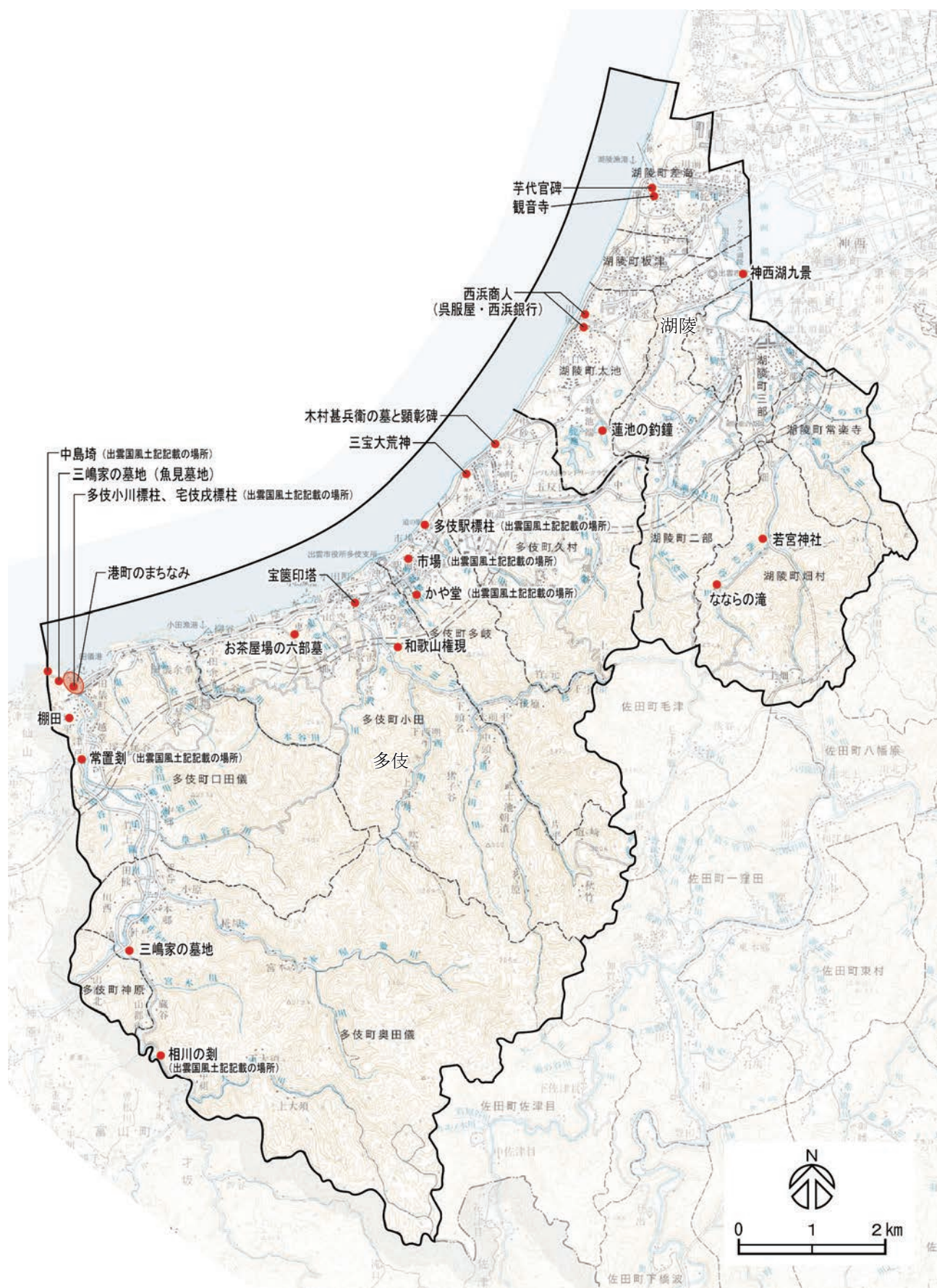


図 1-20 文化財(歴史文化：主として未指定等)とその分布～湖陵・多伎～